

松田町立松田中学校

研究主題：学習する生徒が主役となる授業づくり ～学ぶ力を育てる学校～

1 実践の目的

(1) 研究主題について

対話的な学びを通じて「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、学習者の視点に立って「学習する生徒が主役となる授業づくり」を進めるとともに、生徒一人ひとりの「学び」を確かなものとするための視点として「指導と評価の一体化」を一層重視することによって「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、「学ぶよろこび」を実感しながら資質・能力を身につけることができるものとする。

(2) 主題設定の背景について

近年、PISA 調査などの国際学力調査で見えてきたことは、自ら考えたり、考えたことを表現したりする力に課題があるということである。教師主導の一斉学習や講義形式の授業と、記憶の再現や再生を測定するだけのペーパーテストから脱却し、「思考力、判断力、表現力等」を育成する授業へと変える必要がある。そのために、学習者の視点に立った学習プロセスの再設計が大切である。学習者にとって学ぶ意味や意義を明確にし、「学びに向かう力」のベースとなる「もっと学びたい」という気持ちが高まるような授業改善を進めていきたい。

2 実践の内容

(1) 校内研究構造改革

本校は、令和元年度より授業改善アドバイザーとして 三浦修一 氏を招き、継続的に授業改善を進めてきた。授業づくりの改

善ための土台が整い、昨年度から「学びの質的向上」を図るフェーズへと移行した。

① 生徒のための単元デザインシート

単元デザインシートは「学びのプラン」として授業で学習者に配付し、学習者が学習の見通しを立てるためのツールとして活用している。授業者が単元デザインシートを作成する際は、該当の教科だけで検討するのではなく、できるだけ多くの人と共有して意見交換を行い、ブラッシュアップを図った。さらに、今年度はより生徒が何をして、どのような力を身につけなければならないのかがわかりやすいように文章の量を減らすことを意識して作成した。

The image displays a unit design sheet for '幻想ノ空' (Imagined Sky) and a 'BINGO' graphic. The unit design sheet includes five numbered boxes with the following content:

- 1. 水鏡を注いで待つ。透明な水鏡の底にどんなことが映るかな？
- 2. 注ぎ直しながら、透明な水鏡の底に映るものを観察しよう。
- 3. 友だちの意見と自分の意見を比較しよう。
- 4. 水鏡を注ぎ直し、透明な水鏡の底に映るものを観察しよう。
- 5. 透明な水鏡の底に映るものを観察しよう。

The 'BINGO' graphic features a grid with various icons and text, including 'BINGO' in large letters and '学習者 矢野コトコ 指導者 土橋 義太'.

The circular flow diagram at the bottom has five numbered steps:

1. 学習者の視点に立った授業づくりの推進
2. 学習者の視点に立った授業づくりの推進
3. 学習者の視点に立った授業づくりの推進
4. 学習者の視点に立った授業づくりの推進
5. 学習者の視点に立った授業づくりの推進



②授業づくりカンファレンス

より多くの学習者の声に耳を傾けられるように、人数や時間の最適解を図った。「いかに資質・能力を育成することができたかや、そのための授業をどのように行ったか」について、授業に関わる生徒すべてが考え、意見を述べ合った。また、学習者が授業をどのように受け止めていたのかを確認し、授業を質的に評価する姿勢かを大切にした。

③学ぶ力を身につけるためのスキル「受け止め」

同じ学習内容でも、どのように受け止め、処理し、発信するかによって学習者の学びの質は大きく変わる。そのため、昨年度と同様、授業者がより学びの質を高めるために「受け止め」を重点目標とした。リフレクションを行う際にも、学習者が問いをどのように受け止めているか、深い学びを得られているかを確認できるよう、方法やタイミングを工夫した。

学ぶ力を身につけるためのスキル					
	発信する	処理する	受け止める		
発信	受け手に伝わりやすい表現を工夫して発信する。	伝えたい内容を、表現の仕方とあわせて組み立てる。	受け止めた内容の意味を、自分の表現に書き添える。	言葉や記号などの意味を確かめながら受け止める。	
情報	身の回りや社会をよりよくすることを目標として発信する。	発信したい内容を、表現の仕方とあわせて組み立てる。	情報の内容を比べて、よりよいものを選び出す。	どのような情報が必要かを考え、収集する。	
解決	課題をよりよく解決できる内容で提案する。	よりよい内容が提案できるように、表現の仕方とあわせて組み立てる。	課題を解決するためのいくつかの提案を比べて検討する。	解決方法について、複数の見直しをもつ。	問われている課題をどのように受け止めたのか表現する。

「受け止め」の質を高める具体的な行動を身につけよう

3 実践の成果

授業改善のための土台づくりの一つにある単元デザインシートでは、検討会の中で大きな問いの設定や身につけさせたい資質・能力を発揮させるための学習プロセスが生徒にも伝わるかなどの意見交換ができた。単元が始まる際には、学習者にある程度完成した「仮キュラム」を配付し、学習者の学びの進度に応じてカリキュラムを変更することも絞り込みながら、学習者と共有することを優先した。

授業づくりカンファレンスにおいては昨年度よりも多くの学習者の声を授業者が耳を傾けたり、生徒だけのカンファレンスなども行ったり、授業をより良くしようとする取り組みも見られた。

学びの本質に触れられるようにするため、単元の始めに、学習者が「単元を貫く大きな問い」を受け止められているか、リフレクションで確認している教科も見られた。

4 今後の展開

今後も校内で策定した「中長期学びづくり計画」に沿って、学びの質的向上を図っていく計画である。授業改善の土台をブラッシュアップするとともに、学ぶ力を身につけ、学びの本質に触れられる学習者が増える授業づくりを展開していきたい。一つの学習活動を通じて、「思考力、判断力、表現力等」の育成が図れるように、生徒一人ひとりが単元を貫く大きな問いを通して、「答えを探し出す」ような授業ではなく、様々な視点からの「答えづくり」ができるような授業改善を図っていきたい。また、「知識・技能」の習得の仕方や何を問われているのかの「受け止め」について継続的に進めたい。